

2025 年度 第 1 回 学校関係者評価委員会 議事録

日 時：2025 年 7 月 4 日（金） 14：50 ～ 16：20

会 場：岩国 Y M C A 保健看護専門学校 1 階 会議室

参加者：宇都宮 幹二 様 卒業生保護者

大隅 紳一 様 なんわ荘 事務長

川村 梨栄 様 岩国市医療センター医師会病院 総務課課長

（事務部長 津川 様 代理）

白銀 優子 様 岩国中央病院 総看護部長（第 3 期 卒業生）

佐伯 愛 様 岩国みなみ病院 主任

江見 享子 様 岩国 Y M C A 保健看護専門学校 校長

沖島 均 様 岩国 Y M C A 保健看護専門学校 事務長

藤中 優子 様 岩国 Y M C A 保健看護専門学校

保健看護学科学科長、自己点検・自己評価委員会委員長

議事内容

1. 報告・審議事項

1) 2025 年度運営方針について

詳細は別紙資料参照

〔質疑応答〕

委員：広報としてInstagramを上げているのは、学校生活を理解してもらうため良い取り組みだと思い見ている。せっかくなので、もう少し画像を統一した方がよいように思う。

学校：見ていただいて、ありがとうございます。学校生活については、学生から送ってもらったものを、Instagramで上げており、統一した基準をつくっていない。見ていただく人にわかりやすいようにしていきたい。

委員：自分の子供が市内中学校に通っているが、職業体験の中で例えば感染症のことがあるのか病院での看護体験など、医療系の分野がないように思う。今は中学生から職業選択に向けていろいろ学校でも行われているので、看護学校としてやっていけばよいと思う。

委員：確かに以前は、病院で看護体験として中学生を受け入れていたが、今は行っていない。ただ、市内の中学校から職業講和として、中学校から依頼があれば学校に看護師の仕事として話をしている。

委員：中学生対象のオープンキャンパスはあるのか。

学校：中学生対象としてのオープンキャンパスはしていない。数年前に、中学生でも参加してよいかとの問い合わせはあったが、結局参加はなかった。

オープンキャンパスでは、保健師・看護師の職業理解も含めて話をしているので、中学生からの参加者を考えてもいいのかもしれない。

委員：将来看護師を目指したいと考えている中学生もいるが、看護学校としてY M C Aがあるこ

とを知らない子が多いと思う。

学校：地域の方にもっと知っていただけるようにしていきたい。

2) 2025 年度入学生の状況

今年度の入学生は、保健看護学科 28 名 看護学科 10 名 の計 38 名であった。両学科ともに昨年の入学生の数よりも下回った。理由については、少子化の影響もあるが、山口県内の高校生で言えば周南公立大学の影響は大きいと考えている。入学生を県別でみると、山口県が減少している。今年度入学生 28 名の内、山口県からは 8 名で広島県からが 20 名で、昨年度と比べ山口県からが減り広島県からが増えている。地元の高校生が減ってきているのが、大きく影響している。看護学科は准看護師の養成校が閉校している中で、重点校になっているのが柳井学園高等学校であるが、そちらの衛生看護科の生徒も減少傾向にあり大変厳しい状況が続いている。

今年度は、開校して初めて高校教諭対象の学校説明会を 6 月 19 日に開催した。参加したのは 7 校ではあったが、高校の先生方にも本校のことを知っていただかなければいけないので、継続してできることはしていこうと考えている。

3) 2024 年度自己点検・自己評価アンケートの結果について

詳細は別紙資料参照

〔質疑応答〕

委員：空き教室の利用は、どれくらいの予算でされているのか。

学校：現在空き教室の利用として、常時使用しているのが 7 F 松蔭高校と 4 月からは 6 F をデジタルギアという I T 関連の事業所があり、合わせて年間で 1000 万円である。それ以外、休日や夜に薬剤師会などに貸室を行っているのが年間 200～300 万円くらいになる。

今、岩国市が企業誘致、特に I T 分野に力を入れておられて、岩国市からの紹介ということもあり、デジタルギアには入っていただいている。

他にも岩国市を通じて紹介していただき、見学にはこられている。

委員：担任の負担が大きいとの意見もあるが、学生への対応として担任の他に副担任などはないのか。

学校：副担任もおいている。副担任も関わりをもってはいるが、実習指導で学外の施設での指導をしていることもあり、どうしても担任が主となり学生・保護者と関わることになる。

自己評価として、「学習支援」の 6 番の中央値が昨年より下がっているのは、現状自分が直接は関わっていないことを反映しているのかと考えられる。学生・保護者にはその時々で様々な対応をしているので、学科それぞれでどんな対応を行っているのか、教員内で周知していく必要もある。

委員：DX に向けて取り組んでいることはあるのか。

学校：DX については、ほとんど進んでいないが、身近な部分で電子テキストの導入に向けてトライアルを昨年度行った。ほとんどの看護学校では導入されているようで、本校も検討はしているが、電子テキストが学習効果につながるのかと思うこともあり、そこはまだしていない。

学校の備品としてあるモデル人形を活用したシミュレーション教育は、教員が研修に参加をし、学んだものを演習の講義を行ったりしている。

その他、学校には帳票類が多くあり、共有ファイルで記入ができるようにしている者もあるが、もう少し効率よくできる方法はないかなどは考えている。

また、DX化として、実習記録を電子化するような動きも他学校ではあるが、患者の個人情報等課題は多く、本校では難しいと考えている。

4) 2024 年度学生満足度調査の結果について

詳細は別紙資料参照

〔質疑応答〕

委員：清拭で 50℃のお湯でタオルを絞る時にタオルの使用を認めてほしいとあったが、臨床では手袋の使用が標準となっているがどうか。

学校：学内の講義・演習では、教科書表記の 50℃ということと、その時には絞り方を教えて行っている。学生の意見では、どういうことが実際あったのかが不明であるが、安全という面でもう少し教育方法を考える必要があるとも思う。

委員：学校生活の中で、上級生と下級生の交流という場はあるのか。

学校：入学時の新入生交流会や、卒業生の卒業生を送る会以外は、行事としては行っていない。SNS などを通じて、繋がらないのかとも思うが、それもあまりないようだ。

委員：入学時購入したものを活用してほしいという意見があるが。

学校：新型コロナ感染症の時に、オンライン授業などもありパソコンの購入をお願いしている。その他、課題の提出などはパソコンで作成して提出する指示もだしているが、思ったよりもそのような機会が少ないのかもしれない。

委員：就職について、先輩の就職先を知りたいとの意見もあるが、そういった情報は公開しているのか。

学校：公開はしていない。就職については、図書室に情報を置く場所を作っている。また、就職試験を受けたら報告書を出してもらい、それをファイルしている。希望者は閲覧できるので、それを参考にしながら就職先を考えたり、試験対策をしたり活用している。保健看護学科でここ数年保健師として就職内定をいただくようになった。看護師よりも就職に向けて情報が少ないため、下級生の保健師志望者に対して、自分たちがどう保健師の就職試験にどう取り組んだのかを話してもう場をこちらから設けたりしている。

委員：就職ガイダンスなどは行っているのか。

学校：学科ごとに行っている。

委員：病院施設などからきてしているのか。

学校：依頼があったところには、例えば国立病院機構さんは先日来ていただいて説明をしていただいた。学校としては、その病院への就職を薦めているのではなく、就職先を考える上でどんなことを知っておくと良いのか、説明を聞きながら学んでほしいと思い計画をしている。

委員：研究授業とはどんなことをするのか。

学校：ある講義を、授業案を提示した上で他教員が参観している中で行い、講義終了後良い点や改善点などの意見をもらい、自分の講義をよりよいものにしていく教育活動の一つである。

2025 年度 第 2 回 学校関係者評価委員会 議事録

日 時：2026 年 3 月 5 日（木） 15：00 ～ 16：00

会 場：岩国 Y M C A 保健看護専門学校 1 階 会議室

参加者：大隅 紳一 様 なんわ荘 事務長

津川 智一 様 岩国市医療センター医師会病院 事務部長

白銀 優子 様 岩国中央病院 総看護部長（第 3 期 卒業生）

佐伯 愛 様 岩国みなみ病院 主任

江見 享子 様 岩国 Y M C A 保健看護専門学校 校長

沖島 均 様 岩国 Y M C A 保健看護専門学校 事務長

藤中 優子 様 岩国 Y M C A 保健看護専門学校

保健看護学科学科長、自己点検・自己評価委員会委員長

欠 席：宇都宮 幹二 様 卒業生保護者

議事内容

1. 報告審議事項

1) 学生状況 別紙資料参照

2) 2026 年度入学募集状況について 別紙資料参照

今年度、保健看護学科は広島方面の高校からの受験者が減少している。昨年は複数名の入学者がいた高校が 2 校あったが、今年はだいたい 1 校 1 名で受験をしている。

看護学科は近隣に養成所がないので、本校への受験者はほとんど柳井学園高校からである。

2. 審議事項

1) 2024 年度学校関係者評価結果の公表について 別紙資料参照

第 1 回学校関係者評価委員会の中で、委員からでた意見をまとめたものを説明し、公表について承認を得た。

2) 2025 年度自己点検・自己評価の実施について 別紙資料参照

令和 8 年 4 月 1 日学校教育法一部改正について説明した。その中で学校評価は、本校は第三者評価の義務化の対象校となり、5 年以内に取り組んでいく必要がある。

ただし、まだ対象校全体をみても体制が整っておらず、経過措置としてこの学校関係者評価の公表で代えることができるとされている。

これに伴い、「専修学校における学校評価ガイドライン」が文部科学省からも示され、2025 年度の自己点検・自己評価の評価項目はこれに基づいて行う。

〔質疑応答〕

委員：病院機能評価と同じような第三者評価となるかと思う。第三者評価機関はあるのか。

学校：まだ十分な機関数はないようである。第三者評価委員の要件などはだされているが、そういった委員の育成も含めてこれからではないか。

委員：病院機能評価では、ISO のもの、また海外のものなどいろいろあるが、費用もかかることなので、その評価を受けた意味のあるものになればよいと思う。

3) その他

委員からの意見

- ・学生の欠席が多いのは、親もゆとり世代そしてコロナを経て休みことが普通になっているのではないか。就職をしてもすぐにエステなどに転職ということもよく聞く。他の業種の給与があがる中、看護師はリスクが高いのにその割には給与が安いと思うのではないか。なかなか難しいと思う。
- ・学生確保が難しい中、高校への説明会などで病院が協力できることがあればぜひ参加したい。看護師の確保は高校生のと時からしたほうがよいのかとも考えている。

委員：広報としてインスタグラムを上げているのは、学校生活を理解してもらうため良い取り組みだと思い見ている。せっかくなので、もう少し画像を統一した方がよいように思う。

学校：見ていただいて、ありがとうございます。学校生活については、学生から送ってもらったものを、インスタグラムで上げており、統一した基準をつくっていない。見ていただく人にわかりやすいようにしていきたい。

委員：自分の子供が市内中学校に通っているが、職業体験の中で例えば感染症のことがあるのか病院での看護体験など、医療系の分野がないように思う。今は中学生から職業選択に向けていろいろ学校でも行われているので、看護学校としてやっていけばよいと思う。

委員：確かに以前は、病院で看護体験として中学生を受け入れていたが、今は行っていない。ただ、市内の中学校から職業講和として、中学校から依頼があれば学校に看護師の仕事として話をしている。

委員：中学生対象のオープンキャンパスはあるのか。

学校：中学生対象としてのオープンキャンパスはしていない。数年前に、中学生でも参加してよいかとの問い合わせはあったが、結局参加はなかった。

オープンキャンパスでは、保健師・看護師の職業理解も含めて話をしているので、中学生からの参加者を考えてもいいのかもしれない。

委員：将来看護師を目指したいと考えている中学生もいるが、看護学校としてYMC Aがあることを知らない子が多いと思う。

学校：地域の方にもっと知っていただけるようにしていきたい。